様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	神戸女子短期大学
設置者名	学校法人行吉学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html
財産目録	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html
事業報告書	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/jigyo.html
監事による監査報告（書）	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/zaimu_jokyo.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2025 年度事業計画　　対象年度：2025 年度　）
公表方法：ホームページ　https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/mokuhyou.html
中長期計画（名称：第２次中期目標・中期計画　対象年度：　2024～2028 年度　）
公表方法：https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/public_info/mokuhyou.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページ https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/effort/check/index.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページ https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/effort/check/index.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　総合生活学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html）
（概要） 総合生活学科は、生活の基盤となる衣、食、住、情報、ビジネス、コミュニケーション分野における諸現象や諸問題を教育研究の対象とし、生活に関わる種々の課題を自らの目線で能動的に捉え、本学科で学んだ講義・演習・実習等を通して、より高い次元で自発的に問題解決を図ろうとする意欲と実践力を身に付けた人材を養成することを目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html）
（概要） 総合生活学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（総合生活学）の学位を授与する。 【知識・技能】 ・生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。 ・選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。 【思考力・判断力・表現力等の能力】 ・客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。 ・現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。 ・社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。 ・持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。 【主体性・多様性・協働性】 ・実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。 ・主体的に学修を深める力を有している。 ・多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。 ・人々と協働・協調して学修を進める力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html）
（概要） 総合生活学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。 【教育課程の編成】 ・学科基礎科目の必修科目として「総合生活論」「基礎ゼミ」「総合生活演習」、選択科目として「被服学」「食品学」「住居学」「情報社会論」「生活経営」「健康管理概論」「消費生活論」「家族関係」「被服構成基礎実習」「調理基礎実習」「住居デザイン基礎実習」「情報基礎演習」の生活全般に関わる基礎知識・基礎技術の習得を中心とする専門科目でカリキュラムを編成している。 ・学科の選択科目は７科目群で編成し、「服飾デザイン」「フードデザイン」「住居デザイン」「情報・ビジネス」「コミュニケーション」「心理」「キャリアデザイン」を自らのキャリアプランに応じて科目を選択し総合的に学べるよう体系的なカリキュラムを編成している。 ・各科目で身に付けた専門的知識・技能を基にして、応用力や実践力が身に付くよう、講義形式、演習形式、実験・実習形式など、科目の特性に応じた多様な方法で授業を行って

いる。
・以下の資格が取得できる科目編成をしている。
「フードコーディネーター３級」「秘書士」「プレゼンテーション実務士」「二級建築士・木造建築士（受験資格）」
【教育内容】
(1)学年ごとの教育内容
・1 年次開講の必修科目「総合生活論」「基礎ゼミ」は、2 年間の学修を有意義なものにするために大学での学び方を基本から身に付ける必修科目とする。さらに衣・食・住、情報、ビジネス等の生活基盤となる科目を選択科目とし、学修基盤の充実を図る。
・2 年次では、「総合生活演習」を必修とし、学科の専任教員が 1 年間ゼミ形式で指導することによって学生の専門性の向上に努める。
(2) 科目群ごとの教育内容
・「学科基礎科目」は「総合生活論」「基礎ゼミ」を必修科目、衣、食、住、情報などに関する科目を選択科目とし、学科の基礎を学修する。
・「学科基礎科目」の「総合生活演習」（ゼミ）は、2 年次の通年開講の必修科目とし、学生の興味・関心に応じて専門分野の一つに焦点を当て、探求的に学修する。
・「服飾デザイン」の科目群は、服飾に関する基礎知識や技能を学び、生活や仕事の場で応用できる能力を身に付ける。
・「フードデザイン」の科目群は、食の分野に関する知識や技能を学び、栄養を有効に摂取するための調理・加工技術を身に付け、食生活をトータルコーディネートすることを目標としている。また、未来の食を自らの手で構築していく力を養う。「フードコーディネーター3 級資格取得」を支援する。
・「住居デザイン」の科目群は、住居やインテリアに関する知識や技能を学び、二級建築士・木造建築士の資格取得を支援する。
・「情報・ビジネス」の科目群は、情報やコンピュータに関する基礎から応用までの知識や技能を学ぶ。「秘書実務」や「経営会計実務処理」では、ビジネスの実際を学ぶ。
・「コミュニケーション」の科目群は、日本語、英語、プレゼンテーション演習などの科目を中心に、社会やビジネスにおけるコミュニケーション能力を身に付ける。
・「心理」の科目群は、「ビューティ心理学」「犯罪心理学」「恋愛心理学」「音楽心理学演習」「カウンセリング論」を通して、ビューティ、犯罪、恋愛、音楽、カウンセリングに関わる心理の分野について基礎的な知識を身に付ける。
・「キャリアデザイン」の科目群は、ブライダル関連科目を理論と実践から学び、ブライダルプランナー資格の取得をめざし、対話力や協働性を身に付ける。メイクアップやネイルアート関連科目は、講義や演習を通して、メイクアップやネイルアート関連の資格取得を支援する。
【教育方法】
・学科基礎科目群では、講義形式の授業ならびに演習、実習を通して生活全般にわたる基礎的知識や技術を広く教授する。
・専門科目群では、社会や生活にかかわる専門的な分野を 7 の科目群に分類し、学生自らが自己の目的に応じた一貫性のある学修プランを計画する。
・講義科目では、現代社会で生活するのに必要な知識を深め問題解決方法をアクティブに学ぶ。
・演習・実習科目は、キャリアや社会の発展につながる技術を中心に主体的に学ぶ。
・「総合生活演習」においては、1 年を通して指導教員とともに自らの学びを主体的に深める場とする。
・講義形式、実習、演習科目すべてにおいて、ICT の利用やアクティブな学修を取り入れ主体的な学びを推進する。
【学修成果の評価方法】
・講義科目は、筆記試験、レポート試験、授業での学修活動、受講態度等を授業担当教員がシラバスに示した評価基準、評価方法に基づいて評価する。
・実験・実習・演習科目は、レポート、作品、筆記試験、プレゼンテーション、授業での学

修活動、受講態度等を授業担当教員がシラバスに示した評価基準、評価方法に基づいて評価する。
・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について、各科目の授業目的に応じた評価基準に基づいて評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html）

（概要）
総合生活学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みがある者として、次のような人物を求める。
【知識・技能】
・生活全般にわたる基礎・基本の知識や技術の修得をめざし、多くの実践的な授業や資格取得に取り組める人。
・高等学校の教育課程を修得し、基礎的な学力を身に付けている人。
【思考力・判断力・表現力等の能力】
・現代社会や生活の諸課題を総合的に解決していくために必要な思考力を積極的に身に付けようとする意欲のある人。
・主体的に自らのキャリアプランを構築し、学びを通して、強い意志をもって自立、実現しようとする意欲のある人。
・コミュニケーション能力の獲得を通して、地域や社会と積極的にかかわる対話力を身に付けようとする意欲のある人。
・将来の社会変化を見据え、現代社会の発展を積極的に生活に還元する創造性を身に付けようとする意欲のある人。
【主体性・多様性・協働性】
・総合生活学科のディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシーを理解して専門科目群の学修や資格の取得を自主的に進めてキャリアプランを描き、その実現に向かって努力したいと考えている人。
・多様なものの見方や考え方を尊重し、社会で協働して活躍したいと考えている人。
・社会生活において人々が協働することの大切さを理解し、他者とコミュニケーションがとれる心豊かな人。
・「生活」をテーマに「創造」することの楽しさを体験し、豊かな社会を築きたいと考えている人。

学部等名　食物栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html）

（概要）
食物栄養学科は、「人間性豊かな食と健康のクリエーション」をスローガンに、時代が求める「食」のスペシャリストの育成を目指します。そのため、食と健康に関わる諸問題について系統的な研究と教育を行い、健康な生活を送るために必要とされる幅広い知識と深い専門性を有する、社会にとって有為な自立した女性の育成を目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html）

（概要）
食物栄養学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（食物栄養学）の学位を授与する。
【知識・技能】
・食品に関する専門知識を身に付けている。
・栄養と健康に関する専門知識を身に付けている。

・食育の実践に必要となる知識・技能を身に付けている。
・健康管理を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。
・食品の開発や管理を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。
・食と健康に関する研究を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。
【思考力・判断力・表現力等の能力】
・食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなす能力を身に付けている。
・食と健康に関する課題を解決する能力や判断力を身に付けている。
・食に関する課題について、創造的思考力をもって解決できる能力を身に付けている。
・専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることのできるプレゼンテーション能力を身に付けている。
【主体性・多様性・協働性】
・社会人（栄養士）として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。
・食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度を身に付けている。
・食と健康に関して生涯にわたり学ぶ姿勢を身に付けている。
・社会人（栄養士）として積極的に社会へ貢献する意欲や態度を身に付けている。
・専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html）

（概要）
食物栄養学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。
【教育課程の編成】
・「専門基礎科目」・「専門科目Ⅰ」は「栄養士資格に関する科目」として卒業必修科目と栄養士資格取得に必要な科目に分けて配置している。実習や実験を多く取り入れることにより、栄養士として必要な、食品・栄養と健康に関する基礎的な知識や実践的な能力を身に付けることができるようにカリキュラムを編成している。
・「専門科目Ⅱ」では、基礎知識を補う専門科目に加えて応用科目を開講し、社会人（栄養士）として、社会のニーズに対応した専門知識や技能を活用し、社会に貢献できる能力を身に付けることや、食品に関する専門知識や、食品の管理や開発に関する専門知識を身に付けることができるようなカリキュラムを編成している。
・教育課程を通して、講義・実験・実習・演習を組み合わせた授業を展開し、学生の理解を深めている。
・授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法はシラバスに記載し学生と共有している。
・カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを作成し、オリエンテーション時に説明をすることによってカリキュラム・ポリシーを可視化し学生と共有している。
【教育内容（学修課程）】
・1 年次には、栄養士として必要な基礎調理技術や専門的な基礎知識を中心に修得する。学修の実践に入っていくための初年次教育として「やさしい生物」「やさしい化学」等の科目を配置している。
・2 年次には、応用的な知識や技術、栄養士校外実習などにより、実践的な技術、思考力、表現力、コミュニケーション能力、判断力を修得する。
【学修成果の評価】
成績評価は各教科のシラバスに示された評価方法により、厳正に行い、学期毎、および累計の GPA を算出し、総合成績評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html）

（概要）
食物栄養学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みがある者として、以下に記した能力や意欲を有した人物を求める。
【知識・技能】
・国語（現代文）・数学Ⅰ、英語等を学び、基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。
・化学基礎や生物基礎等を学び、栄養学を学ぶために必要な基本的な計算ができる。
【思考力・判断力・表現力等の能力】
・食と健康に関する情報を客観的に理解し情報ツールを使いこなすために必要な思考力を身に付けようとする意欲を持っている。
・食と健康に関する課題を解決する能力や判断力を身に付けようとする意欲を持っている。
・食に関する課題について、創造的思考力をもって解決できる能力を身に付けようとする意欲を持っている。
・専門知識や技能を活用し、食事指導や食事管理に携わることのできるプレゼンテーション能力を身に付けようとする意欲を持っている。
【主体性・多様性・協働性】
・栄養士としての目的意識が高く、何事にもチャレンジして実社会の即戦力として活躍したいという意欲を持っている。
・「食」のスペシャリストとして幅広い知識や教養、技術を身に付けたいという意欲を持っている。
・「食」の研究に関心を持ち、これからの食生活と健康のあり方について学びたいという意欲を持っている。
・学校内外での活動に積極的に取り組み、周囲と協働し主体的に活動することができる。

学部等名　幼児教育学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/idea/education-course.html）

（概要）
幼児教育学科は、人間の成長や発達、また保育・教育の方法についての理解や専門性を深めるための教育研究を行うとともに、子どもへの愛情にあふれ、職場の人々や子どもの保護者さらに地域社会と豊かに交わるための高いコミュニケーション力を持った保育者として、社会に貢献できる人材の養成を目的とします。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/de-policy.html）

（概要）
幼児教育学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。
【知識・技能】
・現代の幼児教育・保育を支える幅広い教養や知識・技能を有している。
・子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。
【思考力・判断力・表現力等の能力】
・幼児教育・保育の実践を行うために必要なコミュニケーション力、表現力、問題解決力の基礎を有している
・幼児教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考や創造的な活動ができる。

・保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。
【主体性・多様性・協働性】
・幼児教育・保育に関わる熱意と責任感、倫理観を有している。
・幼児教育・保育に関わる様々な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。
・幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/cu-policy.html）

（概要）
幼児教育学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成する。
【教育課程の編成】
・保育者にふさわしい能力を有するために、専門的な方法論と知識及び技能を体系的に学ぶ。1年次には初年次教育を柱として、外国語活用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など短期大学士として身に付けておくべき資質の基礎を養う科目を開講している。専門科目は、1、2年次にわたって開講され、その中に幼稚園教諭二種免許状取得に関する科目、保育士資格取得に関する科目、加えて認定ベビーシッター資格を得るための科目を設置する。
・知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力などを総合的に学修し、研究やディスカッションを実践的に積み上げる参加型の少人数授業を開講する。
・保育実習、教育実習を1年後期授業から2年後期授業にかけて行うため、それぞれの時期に合わせて実習前後の授業を開講する。
【教育内容】
(1)学年ごとの教育内容
・1年次では、幼児教育・保育に関する基礎科目を受講し学修の基盤をつくる。また基礎理論となる科目を受講し、指導法について学び、保育者に求められるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、保育者としての観察力を養う。
・2年次では、すでに学んだ知識と技能を教育実習、保育実習での体験を通して実践につなげる。また演習科目では、教育・保育の専門的なテーマについての課題を見つけ、その研究方法・実践方法を修得し、問題解決力を養う。さらに、実習を踏まえて再度講義科目により総合的に学修することで、2 年間の学びを確実なものとし、「学び続ける保育者」を育てる。
(2) 科目区分の教育内容
・「教育の基礎的理解に関する科目」では、「教育原理」、「教育心理学」、「教職原論」の履修を通して基礎及び専門的な知識を身に付け、「保育に関する専門科目」では「保育原理」、「保育者論」の履修を通して保育者になるための心構えや対応力を会得し、保育者としてのあるべき姿を確立する。
・専門科目は、教育課程、保育内容（5領域）、幼児理解、保育原理、乳児保育、器楽、歌唱、造形に関する科目と、これらを統合し有機的な理解を深める演習科目で構成される。
・「教職関連科目」では、現代の教育・保育の専門的テーマについての課題に取り組む「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」を開講する。
【教育方法】
・知識の修得だけでなく主体的な学びを促し、他者との協調・協働を取り入れながら柔軟な発想を生み出す資質・能力を身に付ける。
・指導法に関する授業では、実際の保育場面を想定した模擬保育やグループワーク等を取り入れて実践的な力を養う。
・表現に関する授業（音楽・造形・身体）では、教育・保育現場の多様な場面を見据えた実技を行うことにより、創造性を形成する。
・実習に関わる授業では、実習前後の学びを確実なものにすることで、実習がより生きた学修となるよう位置付ける。

・2年次に実施する「学科特別演習Ⅰ・Ⅱ」は、幼児教育・保育の専門的テーマについての課題や必要となる実践力等についてワークショップやグループディスカッション、保育現場での発表や交流等を行うことで、一人ひとりが学びの主体者となり自ら考え表現する力を培う。また少人数制で取り組み、実践的な知識と技術を身に付けた自己表現力と問題解決力を醸成する

【学修成果の評価方法】

・講義科目および演習科目は、試験、発表、レポートなどにより総合的に評価する。試験では授業内容の理解と学修到達度、発表・レポートでは発表内容と成果物の充実度により評価する。

・実習後の自己課題・解決に取り組む「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、学びの履歴を蓄積した履修カルテ等で自身の振り返りを重視した評価をする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/policy/a-policy.html）

（概要）

幼児教育学科は、カリキュラム・ポリシーで定める教育内容を全うし、ディプロマ・ポリシーで定める基準に達する見込みのある者として、次のような人物を求める。

【知識・技能】

・幼児教育・保育について、目的意識をもって積極的に学ぶ意欲がある。

・文系・理系という枠組みにとらわれず幅広く履修し、基礎学力を備えている。

・入学前教育として求められる課題に取り組むことができる。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

・自分の思いや考えを適切にまとめて他者に伝える力を育むことができる。

・判断力、創造力、表現力を身に付けたいと考えている。

【主体性・多様性・協働性】

・明るく礼儀正しく多様性を大切にする柔軟な心を身に付けている。

・他者と主体的に協働して活動することができる。

・子どもを愛し、次世代を育てる保育者を目指す高い意欲がある。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/about/chart.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	1人	－					人
総合生活学科	－	3人	3人	2人	0人	2人	10人
食物栄養学科	－	1人	2人	2人	0人	3人	8人
幼児教育学科	－	4人	1人	3人		2人	10人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
3人	58人	61人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://achieve.yg.kobe-wu.ac.jp/kwuhp/KgApp?section=500000

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
総合生活学科	40人	43人	107.5%	80人	94人	117.5%	0人	0人
食物栄養学科	40人	32人	80%	80人	54人	67.5%	0人	0人
幼児教育学科	40人	36人	90%	80人	64人	80%	0人	0人
合計	120人	111人	92.5%	240人	212人	88.3%	0人	0人

（備考）

b.卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
総合生活学科	42人(100%)	4人(9.5%)	37人(88.1%)	1人(2.4%)
食物栄養学科	32人(100%)	2人(6.25%)	28人(87.5%)	2人(6.25%)
幼児教育学科	21人(100%)	0人(0%)	20人(95.2%)	1人(4.8%)
合計	95人(100%)	6人(6.3%)	85人(89.5%)	4人(4.2%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合生活学科	42 人 (100%)	42 人 (100%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
食物栄養学科	34 人 (100%)	32 人 (94.1%)	0 人 (0.0%)	2 人 (5.9%)	0 人 (0.0%)
幼児教育学科	22 人 (100%)	21 人 (95.5%)	0 人 (0.0%)	1 人 (4.5%)	0 人 (0.0%)
合計	98 人 (100%)	95 人 (96.9%)	0 人 (0.0%)	3 人 (3.1%)	0 人 (0.0%)

（備考）

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

・　授業計画書の作成過程及び時期

11 月　「シラバス作成マニュアル」、「シラバスガイドライン」の配付及び学内ポータルサイトにて公表

12 月　授業担当者によるシラバス作成

1 月下旬～2 月中旬　シラバス点検委員によるシラバス記載内容点検

2 月中旬～　授業担当者によるシラバス記載内容修正

3 月下旬　シラバス公表

講義計画書（シラバス）に、各科目の「実務経験のある教員による授業」、「授業全体の内容の概要」、「アクティブラーニング授業」、「到達目標」、「準備学修（予習・復習）の内容・時間」、「評価方法」、「課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法」、「オフィスアワー（質問等の受付方法）」、「授業計画」等を記載している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

・　授業科目を履修し、シラバス等によりあらかじめ示された試験に合格した場合は、その授業科目の単位を認定する。

・　授業科目によっては、試験は、実技あるいは課題（レポート）提出等に代えて行われる場合がある。課題（レポート）については、担当教員の指示のもと、指定された期限内に提出したときに限り受理する。

・　次のいずれかに該当する場合は、試験（単位認定）を受けることができない。

①　授業科目の履修登録をしていない場合

②　原則として、各期それぞれの出席が授業回数の３分の２に満たない場合。

③　授業料その他の学納金が未納の場合。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	総合生活学科	62 単位	有	50 単位（年間）
	食物栄養学科	62 単位	有	50 単位（年間）
	幼児教育学科	62 単位	有	50 単位（年間）
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：ホームページ		

	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/result.html
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法：

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ
https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/campuslife/campus/pi.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

【入学年次】

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	総合生活学科	850,000円	200,000円	270,000円	その他-教育・施設充実費
	食物栄養学科	850,000円	200,000円	290,000円	その他-教育・施設充実費
	幼児教育学科	850,000円	200,000円	230,000円	その他-教育・施設充実費

【2年次】

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	総合生活学科	850,000円	0円	300,000円	その他-教育・施設充実費
	食物栄養学科	850,000円	0円	330,000円	その他-教育・施設充実費
	幼児教育学科	850,000円	0円	280,000円	その他-教育・施設充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

全ての学生が入学から卒業まで心身ともに健康かつ安全な学生生活を過ごせるよう、教職員が連携し、きめ細やかな支援を行っている。

修学支援については学修の基本姿勢などを、生活支援については施設利用の方法などについて学生に配付する「学生便覧」等で明示している。

留年者、休・退学者への対応については、クラス担任が該当学生との面談を実施し、状況把握や留年防止のために取り組んでいる。また、補習・補充教育として、「学習支援センター」で基礎科目講座を開講し、担当教員による個別相談も実施している。経済的支援としては、独自の奨学金制度や授業料免除制度を整備している。なお、障がいのある学生等、配慮を要する学生については、独自に制定した教職員対象の合理的配慮ハンドブックに基づき、学生支援センターのコーディネーターが、関係教職員及び外部支援機関と連携のうえ、総合的かつ個別的支援を行っている。

さらに毎年度学生生活調査を実施し、PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルに従った学生生活を支援する大学環境の改善を行っている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

時代の変化に柔軟に対応し、学生一人ひとりが幸せに生きるための確かな人生観と職業観を持ち、地域社会や産業界が求める専門的資質を備えた高い就業力を身に付けることができるよう教職員が一丸となってきめ細やかなサポートを行っている。

1.専門教育にとどまらず、社会人基礎力を持ち、豊かな人間性と品格を備えた教養人を育成

するための教養教育を実施。 2.クラス担任・副担任制度を活かし、親密で対話的な人間関係の中で、個々の学生の希望やニーズに応じた就職・進学のサポートを行う。 3.クラス担任・ゼミ担当教員と教職支援センター・キャリアサポートセンターとの定期的な連絡会を設ける。就職ガイダンスやエントリーシートの書き方、また大学への編入試験説明会など、計画的な就職・進学の支援を行う。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生相談室 　学生相談室では、臨床心理士が、対人関係・学業・将来・その他生活全般などについて、なやみの相談に応じている。 保健室 　保健室は、学生の健康保持増進を図るため、健康診断・健康相談・救急処置・感染症対策など、健康管理のサポートを行っている。また、身体測定・血圧測定・健康情報が得られるなど、学生が自分の健康を考える場として気軽に利用できる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/public-information/index.html

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。